

Citation: Ciccone A, Abraha I, Santilli I. Glycoprotein IIb-IIIa inhibitors for acute ischaemic stroke. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2006, Issue 4. Art. No.: CD005208. DOI: 10.1002/14651858.CD005208.pub2.

CRG名: Cochrane Stroke

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 4 June 2006

Clib issue No.; N/U: 2006 issue 4; New review

背景: 糖蛋白質(GP)IIb-IIIa阻害薬は、隣接する血小板を架橋するフィブリノーゲン分子と結合する受容体と拮抗することにより、血小板凝集への最終共通経路を遮断する。従ってGP IIb-IIIa阻害薬は血栓増大を抑制し、フィブリノーゲンとの競合的阻害によって血栓の再形成を防ぐことにより内因性の血栓溶解を容易にすると考えられている。この阻害薬は現在、急性冠症候群および経皮冠動脈治療に対する臨床現場で使用されており、急性虚血性脳卒中患者にも有用である可能性が考えられている。

目的: 急性虚血性脳卒中におけるGP IIb-IIIa阻害薬の有効性と安全性を評価する。

検索戦略: Cochrane Stroke Group Trials registerを検索した(最終検索日2005年5月31日)。さらにCochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL) (コクラン・ライブラリ2005年Issue 2)、MEDLJ.NE(1966年~2005年6月)およびEMBASE(1980年~2005年6月)を検索した。その後の発表、未発表および進行中の試験を同定するために、関連論文の文献リストを検索し、試験実施者と製薬会社に問い合わせた。

選択基準: 急性虚血性脳卒中患者においてGP IIb-IIIa阻害薬をプラセボと比較した交絡のないランダム化比較試験を解析することを目的とした。脳卒中発症後6時間以内に治療を開始した患者のみを対象とした。

データ収集と分析: 3名のレビューアが別々にレビューに含める試験を選択し、試験の質を評価し、データを抽出した。

主な結果: 患者474例を含む2件の試験を本レビューに含めた。6時間以内に治療された患者414例のみのデータを検討した。患者は静注アブシキシマブまたはプラセボで治療された。アブシキシマブ治療は死亡数と要介助者の両者を併せた場合に有意ではないが減少がみられ(オッズ比(OR) 0.79; 95%信頼区間(CI) 0.54~1.17)、死亡のみの場合も有意ではないが減少がみられた(OR 0.67; 95%CI 0.36~1.25)。アブシキシマブ治療は有意ではないが症候性頭蓋内出血を増加させ(OR 4.13; 95%CI 0.86~19.67)、同様に有意ではないが重篤な頭蓋外出血を増加させた(OR 1.51; 95%CI 0.25~9.12)。

レビューアの結論: 急性虚血性脳卒中におけるGP IIb-IIIa阻害薬の有効性と安全性に関するランダム化比較試験に基づく十分なエビデンスは現時点ではない。進行中の試験の結果は、このような薬剤のリスクと便益の比を理解する上で助けとなると思われる。

翻訳公開日: 06年12月27日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。